

知事メッセージ

国際連合代表部 関係者各位

本日、ここに「ひろしまウォッチ」をお届けできることを大変光栄に思います。

今年、広島は、原爆投下から数えて80年の節目の年を迎えました。1945年8月6日、広島には、人類史上初めて、原子爆弾が投下され、その年の12月までに、14万の人々が、命を落としました。そして、今なお、多くの被爆者が、後遺症で苦しんでおられます。

しかしながら、現在、ロシアによるウクライナ侵略の長期化やガザ地区におけるイスラエルとハマスの武力闘争など、国際的な安全保障環境が厳しさを増す中で、核兵器をめぐる状況についても、その使用の脅威が高まるとともに、核兵器、核抑止への依存をより強めようという動きが活発化するなど、これまでになく厳しい状況にあると認識しています。

広島県では、核軍縮に向けた多国間協議の場として、「ひろしまラウンドテーブル」を毎年開催し、国内外の核軍縮・国際関係の専門家・実務家の方々を参加者としてお迎えし、その議論の成果を、議長声明、昨年からは「ひろしまウォッチ」として、国際社会に向けて発信してきたところです。

今年は9月に、日本、オーストラリア、中国、韓国、ポーランド、ロシア、アメリカから核軍縮・国際関係の専門家・実務家の参加を得て「ひろしまラウンドテーブル」を開催し、この度、第2回目となる「ひろしまウォッチ 2025」を公表しました。

この「ひろしまウォッチ 2025」は、核兵器のない平和な世界を実現していくため、各国の核軍縮に関するコミットメントを問い合わせ、核保有国や核の傘の下にある国々をはじめとした関係国に対し、核兵器廃絶・核軍縮に向けた具体的な行動の提案を行っております。

被爆地広島からの呼びかけとして真摯にお受け取りいただき、核兵器のない平和な国際社会の実現に向けた、具体的な行動を取っていただくことを要望いたします。

最後になりましたが、貴職の御健勝と御活躍を祈念するとともに、近い将来、ぜひとも被爆地広島を訪問し、被爆の実相に触れ、核兵器のない平和な国際社会の実現に向けて、ともに歩んでいただくことを期待しております。

敬具

広島県知事

へいわ創造機構ひろしま 代表

湯崎 英彦

添付書類

○「ひろしまウォッチ 2025」

核兵器のない平和な世界を実現していくため、核兵器をめぐる差し迫った課題について、各国への政策提言に主眼を置いて、有識者の意見をまとめたもの。2023年に開催された「ひろしまラウンドテーブル」の中で作成を提起され、2024年に初めて発表されました。今回は2回目の発表となります。